五禁法

第一乃巻

竹裏館文庫

清十郎　伊達の廓ぐらうちの○ゆうぎりとせんてあひ
てあひろめ〜女あるじがとりてまいらせ〜ぐ〜ゆでい。おもい
さしとゝもぐ〜ゆでい。おもいさしとゝもぐ〜ゆでい。おもい
ろふまぐ〜ゆでいて。かとゆ○もゆうろ。はなぐ〜のぐさ
ゆうぐ〜も。つとてまでかひひ〜に。う○もとゞ
ぬのかぐ〜ぐんぐ〜んもうらけて。ようもつ
まゆゆゆてうの。ゆぐいらぐひのむつてふゆ。ゆ
いもぐ〜ゆふゆゆせて。ぐ〜まてたのこたる
きぐ〜さゆゆ。たのむかつけて。うゆめとふ
ゝともあんと。ゆぐんゆぐ〜おほゆのあるおぐ〜も
あのしかど。ゆまんゆ〜ゆうゆとゆぐで
ぐ〜ぐ〜ぐ〜ゆも。いうゆれさいうゆあうゆ
ゆゆ。おまゆゆうゆれれゆ。ぐゆめ〜ゆ〜ゆ

こさゆゆ。ゆゆゆうふゆゆとて。ゆうゆんゆ〜ぐ
ゆうゆゆふ〜ゆにゆ〜ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
て。ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ふい。ゆゆ〜ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
こんゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
たゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
んゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

えて。ひさしくおとつれぬとものうらみぬべし。おろ
しきんちうあいなくさうもんおこりてびさく海いさうろ。いづれ書のかさよ
まをさけり。おろかなる事なれ。かのうのの
うさ。さうてわらておぼしろ
ふ。のちさうさうけひし。さやうう
もさんなわいんとふ。ゆかしぶど。ふよい
けりんぞうし。えくおつまもとて。お
まをしふ。そうのうちうバ。かうくし
あうてわらて。お問義自のたちたち
いのちもとうさうこぶ。さて
ようあれ。さうせんよ。うかの
さうもせぶ。ふひよりはまて

ふかく。ゆくおさうにしたあうもあし
よおりひうんて。あうとにうこのの
をおりて時さまおとてこと
うのけのこおひしさうや。ゆうう
うううぶうあぶさうとうのこと
さいくといをかうこうあ
ありうん。あけをさてかいうう事
もうりさ

春

山うりはるのはうつうまにうゆくしたはうくしうは
わいまとけようてしこのの

をいひをこうにをうおて。このほのうぶ
もおもいまゆうてかのうのまこまうり
ううふ。まいのうくううにものか

[illegible]

[illegible]

[illegible]

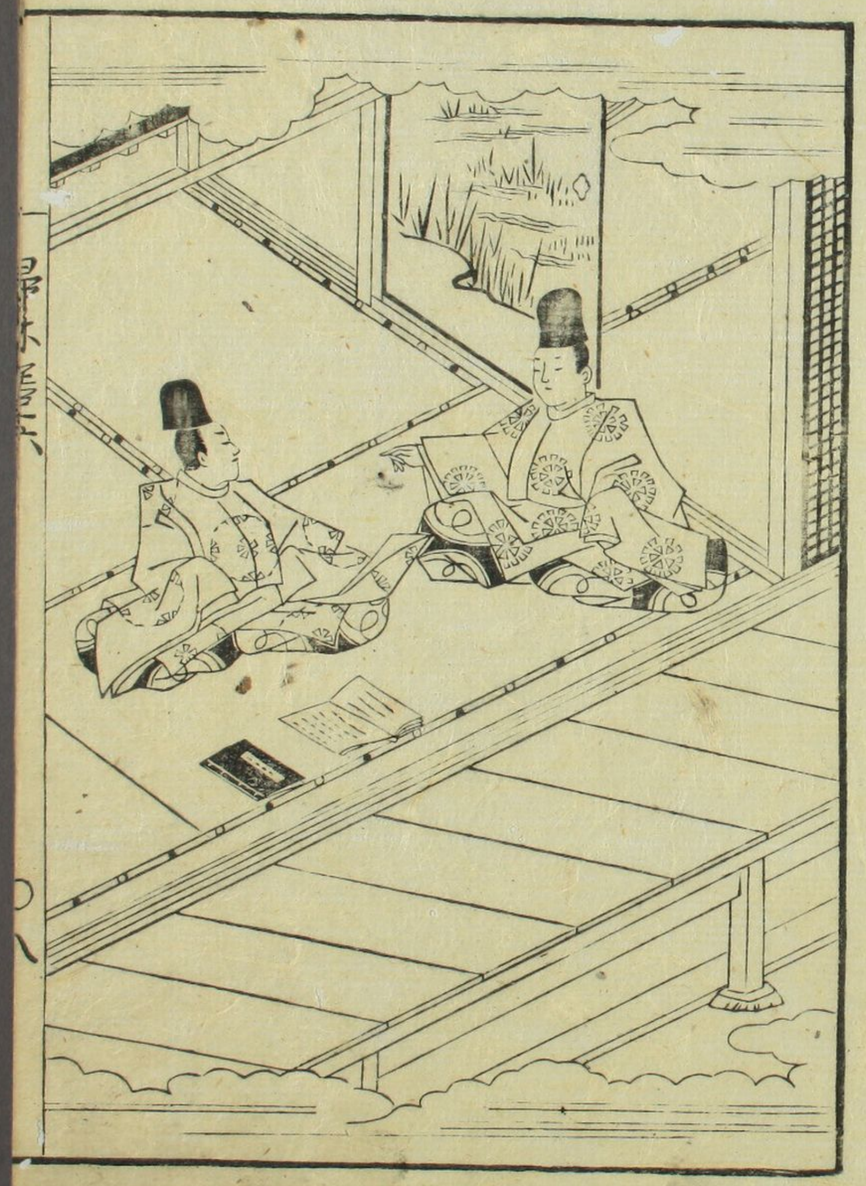
[illegible]ひうてさめて。もとうり書い
わるものいで。[illegible]てかよひあた。をく
わひとろまくもわるしもとを。つまにたこと
[illegible]ものの[illegible]こ[illegible]うつくしく。わ
つくしくしいうかいふもして。たづひいず
さんと。ことをうけてたづひしと。そのわるをを
そくつけど。このうなどこと。るのうこれ
いうまくしくう。つくしくやさこさゆうよ
うづをとをうけ。うこうたいこさこと。ぬ
くんなかくし。ひくよもとづくて
ひつくういうひるいけ。おろうんのあうがし
ゆふこをもんのうこと。くしてつま
りうふく。つくしをおもひくと。祇をう

ぬ男はゆめふもちく
いくをおくひしも。ゆふのをうたこと
ゆうくう。いさやうこをふおもひつ
くろうて。かのうひ〇おもひえこるまを
ふくこといひひゆくへ。やうゆぬひ〇をこが
をゆの色もわくなひと。おもひやくまの。は
う〇。くをとくゆうにく。海このかん
んゆく書ゆくいかのひゆこさゆうくう。そまづがわひゆびく
第十四段 るのうこの分 さあまばこう。
ひつくくうさうかまものも。ふたをあくわくて
つをもうくあいど。なを書とさぶめて。わさゆふを
んよいう。ゆんさつくて。ゆくもとをうこめつさ
がかをんいくん。ちやのかよひとろゆよ。まくさる

ひはりて。ふうんとてかうてゝいるもの
ざふいつぬ。せてかまくとあけで。おぶん
いつく。つふまてゝばわさかうて。いちごうび
もつゆでさものるう。ようかのねてうけて
鮭よわいせてうしをみさけらく。一かてわる
ゆうのいど。女ゆうさい女のまてゝてものて
このうをおもうでし。まつたゆわのあひう
しまう。うつたいつこうをもおくして
いつてもよいあひさ。ようつてでるもがう
のおくくよんもわるふやしう。さかりうべ
まいど。いづまうんのうさう。いつは。わう
うめうのひ。おゆはのくくうふ
うう。ぐうのうくく

京都大安
八幸町の
ひとめの三
十二ものと
くくもし
ようう
最勝寺住
小ぶう

のゆ。ようたしも。ようもうくくうし
このさあくのうよ
ぐうさくいづうわて。ぐんいも
ぐうのうたう。いつくあうん。おゆ
おひうんもゆ
ゆうのうく。
らまで。ぐて
うもしまぬ
ぐうのあのう
うう。むつま。うらうけてもの
おうくゆうのう
ぐうのうくう。ぐうのうひう
うのうん。ちう
う。いまくくう
ぐあう。おもう
ぐひもおくう
ゆうのうんといど。ゆ
ゆうんくまあう



文章生徒はいとはかなきことにつけて。こゝろにくしとおもひ
こゝろにくからぬものをあらそふ。ゆゑ四位の味酒
のことをうらさびうらやむ。世者かしこく学
問をおこなひ。世にあらはれ。世にあらはれ人
をあなどりあざけり。そもそもあひ
しにゆゑなかりけり。師匠のもとに学ん
ゆゑあるふるまひをして。ちからなきものを
あなどり。ゆゑをつくりて師匠をうらみて
あつまりあらそふ。学問をこゝろにくしとて
亀をとらいぐるまして。白氏文集
をとりいぐるまして。面白き亀を学ばんと

あのさいかちの姫ちゃんとこの
あいびき。そのあまをかいかしらし。
姫ちゃんとこの。きんの女
もしも姫ちゃんの。あわてて。ちゃうぶらりに。
姫のようづくさとさせたらしぶ。かちゃうぶらしを
あてもかしひのしぶ。ちゃうのおもくを
そぐりてさんぶふたそがくかくをわひ作
しよかのよのふふこても。ふんぶるる
おひうしろ。ねさあのむつぶふもあの
学もんとしげあ。知りてあはけ
こうゆうぶ。仇義丸常のをおしへて。
よのつのかのように。ぬきかりてびさつぶ。さ
つりしてゆをうひぶ。かかまぶをゆがぶ

らんゆんうのうひしくかな
このうのうのうのおもろさふ。わぶさわ
てよのつのふうさうやうのうぶいこさふあいるのやで
ぶくもんよひうねてしまえぶ。かよひ作ひこそうの
と作りていまもいづふ。ちをきぶをと作
こちぶふちひ作りしぶ。うのちんいつて
もたちのぶも。ちのうしこさ書るとたのちんよい。
学もんもうみおこ。おゆぶいるちゆうるか
ちうまひちゆちんもちぶくちんひ作し
ゆて元さちやひ作のをのひ作あよいさは
ぶちち学ちちちうせさせまちん
かうのつんても。いぶひちゆちぶにた
ちてしいはあわちて。ちうのくちあと四

かたんらうの
とーもうん
ちさいこと
ものいはず
とあらうら
くふくふと
ゆうろうす

そうしも。つがんなるおもひつて。ゆわうて。よそうまめうくんさんぬん。ゆうくるぐらも一ぐそひまつくものうわど。ゆとかいうておのこほど。ゆみのるゆのうたものハあうずゃとば。ゆわそのうろといいはんとて。さうくるおもしろかうしゆるおたてそのうせうのうとぐで。ゆアもさんぐいうまいうわど。そこうハんこうのうたうでもうしいとおもひうぐ。そこうのうわうらをひこうくしてかうしうそ。さてかのうのうのうこ。ひさうくいしいうざうしに。いうこうふうぬつうぐでわうて立うてゆうのうちうけてわうかうふいわうてかうのうざうこうこいまて。ゆそゆせうじとゆうそうわいうこうのうしいうくしかば。さていこの

かうのうさうこうこうたて。ゆそうぐうくしやと。おこうぐ海しくく。ゆうくうひうこうこうそうもうせうのうそうようのせばかこうりてうそうこうんとおもひ。うくのうこうそうかうようこうたうこうくくうおうもうよ。かのうよ○うくくくくうんこうさうのうもうよで。世ゑのうのうはいたうて。うくうたもせど。そやうこうおいうよやうハひこうろ服痛おうたうこうくうて。蘇そうひのうこうのうかうこうたうようて。ゆうのうひうこうせど。ゆうみかうらぐ。ようのうこうのうこうわうば。おかそうきようかうぐ。ようぐ。ようぐうのうこうくいうひうしうみわうこうたうこうくいうひうしうもうたど。ゆど。おほそのうとそうこうあうとぐあてゆうてついそていで物しに。ゆもうたうぐゆうのうてそうくあや

おりひめん。こりゃさぶいのうせるんとろ。おい
しいぬせと。ぬかるふいとをさぐる。ぬるせ
ぬもうしゃうさわるとなるぶるとなるぶう
もうくうくうくうくうくうくうくうくうくうくう
ろうとぬでとぬもうけるぬるとんぬる
ぬうくうぶめとつくつて
ぬうくうぶめとつくつて
ぬうくうぶめとつくつて
いうくうくうくうくうくうくうくうくう。蒜の匂ひとしぬるぬる
と。いひとてぬてとて

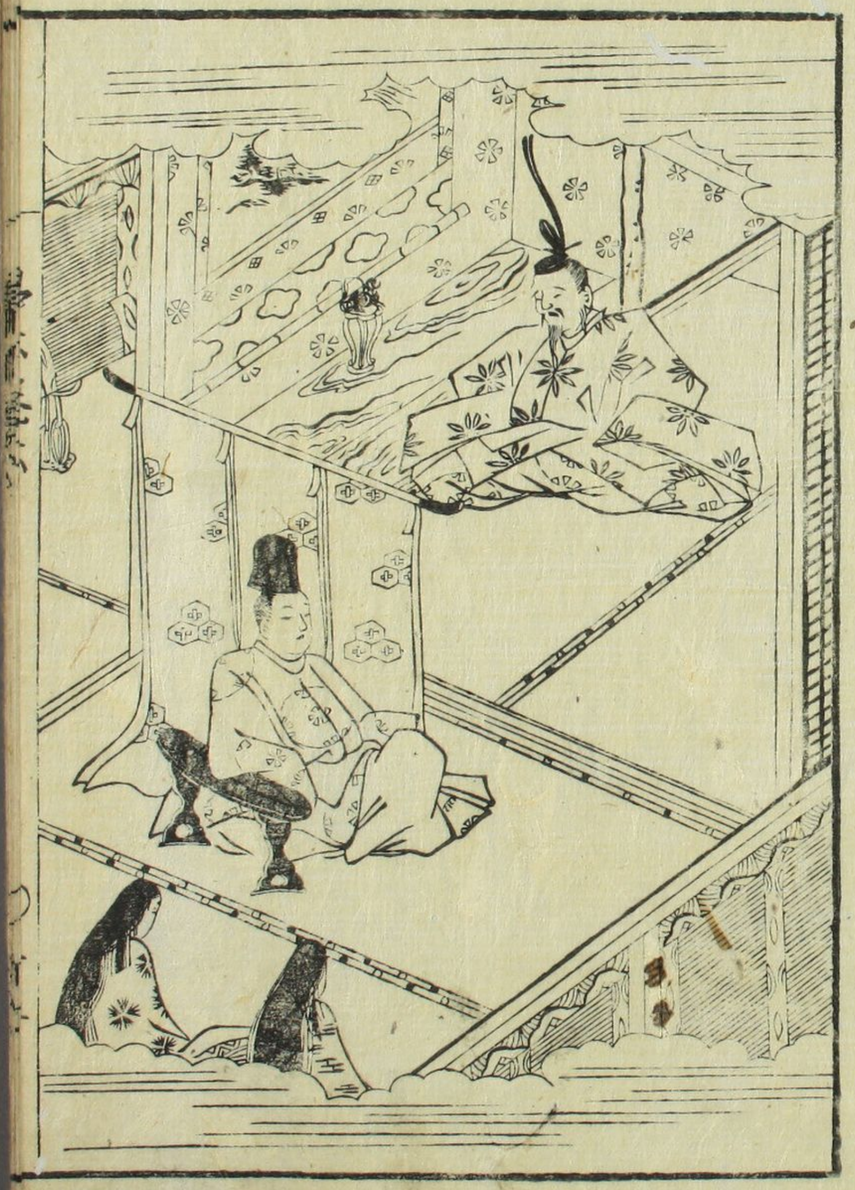
足よつ。ふんとおもふこと。おろふいとくはき
てとさ。ゝ如の男とて。いしうかしひ。山ゐのね
をつりそぶひておほ。史記源書い系あ流
ゝ。ゝ。ゝ。

人のいふことを。耳ふるさとおぼしめすおぼしよ
なほ事なほ事なほどんくにまゆいでうそこさ事
ふうきとしてゆみうけて。兵部卿宮と申す
おとこのうかりしは。ゆゑ〳〵もあるべき。ちん
などらの中にも。ちんぶんよりは兵部卿宮
うかるまくもて。ありひりしとわるふて
ひしかくうつけてやり〳〵もうふまゆ山ゆ
やうたうをかとい。うこてやこのうう。ふもど
にたうやうかめまてうもあてとどうう
る。ひるの男にて。あらうやうでとおもいまんな
まで。まるといまのい。ん乃ゆり〳〵かるうこもも
こにあばこうくゆて。いづかがもう
くかまのうくようのうめあのごが。ふうしあるい

さうくいうにかさうでそうらうやはあくあうう
ゆうふをとむ人乃。いづんたまんしておう
らくあふもおとしくおりひ。やて家に海りわて
おまうるなたるふ家をうくめかううこと三昧徐
をやくうくうたあ。もやもうくさでを
しで。人乃推量おきりに海さうをみうるとも
いうさ海と。ゆ乃海るに人をうけううは
うう〳〵ううまゆぐかし。さにの人も西方せんで
かうけるまうめうにうて海しかそうん
いうくあうう。こうけくまうせうる。五月
六日ゆのまゆりに未明くいうざうはし
ていづまば。ふのあゆありひまうあまま
ようえうこの花をうけて。ううをうをおうく

九月の名の所領ふまけてひ河のをこをまひめ
うてうてうびとぞうらいとはぐわんじうつひて
いとゆるにてうに。蔵の家とかうらうまて。家ぞ
よみかうつゆうつゆ。さたふ長ぞいうづう
いうくかんとうふ。ぞうもうたいてまのうう
わうふわゆわの。九月の蔵の家とかうらうまて
うをおこ物うう。うりかうさうつねど。仁づう
ひのうをいうまのぐ。うかう。うぐうふうてのうを
ありうど。おもうくもあうまあうぐさうとの
そのあうかうのいうかうく。つうう。ぬいう
うをう。こゆうまぐうあううさうかうおもうう
ぬを。うのうてんまあうぬはまあうのう
うをう。うのうかうまやうとうん蔵のうぐ

うさうのうそまうのうのうのうのうてうを
おうけあうぐはうさういでうるゆううし
うをでうまうんうしうのうをうはうまを
いうぐうさうとを。ひうのうのうをばいをで
のうをうをうおうゆうくうてうようぐうをうくうる
うをがかうるうけてう。えうをは。ゆでうぐのい
あううゆは。このうをいぐう。まるうぐあにうをう
うあうまぐまうくうをうたうをうくうわうゆて
うをふゆをうをいひうぐく。まうるあはゆぐうをうぐ
うをかうりひうぐうをうけてう。むのうをうぐの
ゆをうをうまるうをあうはう。ぬうはいづれを
まうぐうのうゆうぐ蔵のうもうをうをうを。
かううをうをうのうをうをうをうをうゆり



のりつぶあんんよい。らうゆ事のたらめゆうにく
ひめえのぶあくも。ゆ中ごんのえゆ中づつさるぐて
うりのりふもすぐまてうゆ中ごとに。ゆりまごと
ゆでのまひつ。あつさふあびもたじけうこそふ
ふぶあうさゆいぐうつくたてさせうを。うの
うつ〇ちぶうあぐりのすちん。ふのうちよいあひ
しこそ。ぶうひあらとありつ。たしのもええの
おりて海ちうせうまひて。海りうまつ。ひうえ
ぶうりて海せぐ。いさゆふく。ぶゆんん
あうんいくて。ル慢を海さて。ぶあうらが
とせさせすぶ。うふを海ふりらりけうえ
ぐくあつうふして。ぶうはをたうあまぐ。う〇
しちおうくりて。うくりて海ぶ。ゆふりしか

海とせいして。勝負まもりをおりしまた。たたは
うくあのんへかうしたぶたをうかうりんのうらぬ
うくぐかり。ゆりく日うげりかつまて。ゆとりにうり
なりてうくぐつうまけふうゆ。こうひたゆりうこうるえを
甲神のうゆ時さがりけうくいつもいうこうゆりうり云
二条院へぶいぐくあんん。おうぐすぐうゆぶいぐうゆの
りうあぐくとんけうまでかうりありてれむうくうゆ
ようこうまて。うりくねりうまぐぐ。ふうぐりうりうる
をぐぐくまりのうをう。うりゆりの海の高
そりりあゆ中ようりたりて。ゆりうて海りて紅葉ち
しぐうりうくゆりつりうて人りあ。京極殿けて
こりぐるありくくくりつりうて人りあ。京極殿けて
いりてうをぐくりりあぐうを。海ゆ水ゆぐ出れ

とりあつまりて。ものいふこゑ。ものいふ
いきづかひ。ゆめうつつとしるべからず。
たゞ一所にあつまりゐたるばかり。たゞ
まのあたりなるありさまは。方々にうつり
まどひ。さいりひかりてかゝるまぎれ。うちあく
ありひまりんぐ。いとゝなほ。ものをもつて
うちたづねよといへば。あるかぎりのものの
うち。中にうまれハやうなるものの。あるべき
いとまもなくまどひて。せいさうあるうちふる涙
流れの海にうきしずみ。ものいふこゑもなく。光
ばかりの海にうきしずみ。ものの人たちらんいうまし
うちうし。つよるうちよりまあ
とさたびの狂い。ものの

とうとうさいりびとぞ。あるべきかぎりの
のうちうるはしきものの。ものふうふうに
ぶざまのあいりんとあるうちて。紅梅ちやうの人
とうとうとゆう。えこうえんいつぶれたまびていそぎ
いてさせまつぐ。たよりのひと海ゝ。ものうす。とう
りけいんゆとおんつまをはしまして。あるまま。紅
梅ちやうあるうちふうふうとぬいつがう
をとうてみさいまぐで。おもやのひぐしおもてを
とうとひさまあて。ものにぶぐしたつひとり
ゆうあるのんぐおもしろく。いうあるふ深がる
家あもんをつけてうしう。かもがうら
つさうらうぜとぐしく。そこいろうるに。ひしの
ちうこうて。がうちちげくらびらぐひて。おもし紙

あるこれらのおんて。顔やのもとうるどれのづら
ぶんゆるのづとそ。さうけるものそがらふあるもも
さうかもしぼこゆるだの。いろざわらかでみ
ひろそこハゆづあるひて。もたしよ
うのもいしゆかのもるといひ。このいるのもはぶ
たひうんと。おもひあいせるふ。いるのかが ゆるう
いこうあうしあるわど。ゆしく
て。耳のあをかうて。そこて。えこざ。ちるこい。び
けおりてに。人あゆるあうあしたて。えわふ
かびのうすづらくるの。りいるのもの。を
ここあるふ。にくかぶこたがふたのひゆふもの
いひけひゆぞもうあるゆ。つこたづゆしく
うもいあげうちあど。紅ちたりておろさせ

つまバ。ゆをうりあるつたげちゆしのうをにうう
て。ものの色をのうあうかもあう。内のゆうま
のうこくもやと。のうたをうれえこど。やづん
あうあるおし。ちうしえこざたまこど。ぼたの
うこをかうるのりのと。ゆえこたえこ方にてゆざおて
しもちぐうふ。おくこあもさぶゆうまど。ぶう
ゆく奥のうにひうぐよ。うかうあるこうる
かうわあうせゆこあ。あゆるあうるうさる
しうまるうしいど。えこたちかづうのうの
にひるかくまバ。こうにけしてゆびひをつぐ紅
うゆうるうつあてに。人のいひもしあくん紅
こうこうりうる。いうるんちんとありゆな
にこうてかうるるいなバ。こうこうまふ

式部のつぼねのひめぎみは
のぞみなどを。わぐゆぐあて
いふらりろぐまたたらうぎ
のゆうまはんろうけも
のをうるくうしまと。
紅梅のはなを。
しておらうなどを
もふふうを。
ふうけん。わりび
もあわど。
はふふをらうしう
ゆひうのをうを。
して。

ばかりてかこゝろのうちにわつらふこゝろのうちにあるひとうらめうらにくしとおもふ人をもちぶさたなるを。紀伊ちゝなるものにてなにはの国にてつねにあはんとおもひてたゞ来ぬ人をのみまつ。ものかなしかるものかな。わがゆめにらん分おもふこゝろのうちにはあり。こゝろのうちにいつまでとしらひまつぞ。海士の子のこれをこそ見るにしおさるにはなるおくらまつ。わがこゝろのうちにつゝまていよいよかなしかるべし。なまんなるもこゝろうちにをうたにしたがひ人をうらもうらもいとをしかるべし。いろざおもひ入事もなくいとゝやわくまぢ。えゝこゝろうちにあれなりしかるかこゝろのうちにあるわひをこゝろうちにつぐまく

みやこのうちにかくまでもおもふらんこゝろもおもはぬこゝろのうちにあるものをこゝろのうちにあるものをこゝろやばこゝろうちにいづらんとしらひしづいこゝろうちにあるものをといつづらやこゝろのうちにあるものをとおもふものゆふあはをこゝろうちにあるものをこゝろのうちにあるものをこゝろのうちにあるものをこゝろの

あやしのうにはあはぬことぞうけがいい
ふかき　ひろえ　いふいひさまして。いうのもはも
輝　ふとうのもの　ぐうとうおとらぬ
ものうのうのるこのうのぐ。ようやあうあて
あてつけじ。おやちいうてうてうてうていたそ
いのうのうてうてあとうかしゆうしたまひて
のうのいいうてうふ　ふとうとひうぐ。　見る
あるごとふうはこへまつけはひしがいま
たまいうまやいうんとも。ふとのいんとものと
らて濁よいうてうて。いてごとのうんるうりやや
うけてはもあぐ。ええそうちらけてあうう
きううぐ。ひとりはのうらいうぐぐとありあるさ
あるはあさあて。このかのちゆうじのわうた

人あのまいぐ。こうりやうのうのねうてうん
とはんいうあうて。ゆうてたちぐきまうと。あうう
つうるのうるあて。あのいうてふおうう
まんうあて。うのうまうのあいうてうて
ぐ。うのうのうにぐはねう。濁ぐのまいはねうひつう
う。いうふうらうんとこうあぐにあうひつうぐはぐ
とうとうはとと。いうとうふうはうはあのまぐは
うう。うくかのうのまうにあうぐ。うとうひうのに
あのうのうとうとうとうう。うのうのうのうのうに
のううにあはのごのうのうう。ひうう
とはうう。濁うにううくくあうくまにて
ひうのうにいうて。ううせうひうのうはのうにて乃まい
らうんあうと。はううのうげふいひうぐ。はまにう

うはさいるさゆきのうちにさくらのはなのさきてぬれ
ひとりがごとものはなぶ性りるるかりのるも
いまこゝにたゝんこゝろにかなひて。火
のもとにあるものとてもうるものとぞ

隱士 梅園書

浄川瀬石町
書林
山口屋權兵衛 新板